

童

2020年11月27日。

今年は雪が早いぞと思っていた一時の冷え込みも薄らぎ、暖かい日が続いています。コロナ対策で、野外での活動も主流になってきているだけにありがたいことです。室内の薪ストーブの薪は、外のたき火用の代わり、毎朝、たき火が子供達を迎え、朝の会がここで始まっています。素晴らしい光景です。薪ストーブの暖かさもいいですが、たき火のそれは更に子供達に自然の素晴らしさや生きる感覚を与えてくれます。

大豆の収穫 豆はたき 大根の収穫 大根干し漬物などを終えて、畑の整理はほとんど終えて、残るはりんごの収穫のみ。10年前だったら、リンゴの収穫は、11月初旬に始まり、中旬には全て終了農作業納めでしたが、現在では、12月までずれ込んで収穫しています。温暖化で、完熟にならないからです。それだけ、地球温暖化は確実に進んでいます。リンゴの収穫も、何週間もかけてやっていたのも、現在ではお祭りのように2日間位で大勢の親類友人縁者達がわいわい宴会のように行るので、収穫も楽しみの一つであり、収穫祭そして1年の農作業の締めとなります。

こんな季節里山の流れの中で、子供達は11月も元気に畑仕事や散歩に飛び回りました。今年は、サツマイモが豊作であり、それは大地の玄関内に、粃穀に保存された上に、毛布で包まれて大事にされています。ここから毎週一回は、さつまいもを取り出して焼き芋を味わっています。そして、その上手に焼くこと！！新聞紙で包みそれを濡らしてたき火に放り込むだけ。焦げないで中が柔らかく素晴らしい焼き芋。これは熟練の技です！！やはり回数を重ねれば何事も成就します。サツマイモそしてリンゴ これが子供達の毎日のおやつです。

コロナ拡大で心配な毎日が続きますが、たき火による燻煙 野外での活動 そして病気知らずのリンゴなどを食べて、元気に乗り切りたいと思います。



【刻石流水】

11月25日付の信毎に「刻石流水」の記事がありました。スーパーボランティアで有名な尾畠春夫さんの座右の銘です。

「刻石流水」：人から受けた恩は、その人に返すのみならず、より多くのひとに施すこと。そして自分が施したことは、その瞬間に忘れる事。もともとは、仏教經典にあった『懸情流水 受恩刻石（情を懸けしは、水に流し、恩を受けしは、石に刻むべし）』から来ている言葉

- ・他者にかけた情け（与えた恩）は水に流して忘れるべき
- ・他者から受けた恩は心の石に刻み込んで忘れてはならない

逆の状況は

- ・他者にかけた情け（与えた恩）を（いつまでも覚えており）口に出して言う
- ・他者から受けた恩をすぐに忘れてしまう

自分を振り返ると、どうしても逆の状況習慣 癖の思考になりがちです。「〇〇できたのは自分のおかげだ」とか思ってしまうがち。冷静に考えたら、それが事実だったとしても、自分で言うことで与えた恩の価値が下がりますし、更に「恩着せがましいことをいつまでも言いやがって」となっていくでしょう。相手から疎まれたり鬱陶しいと思われたら悲しいことです。だから言わない方がいいでしょう。

次に恩をすぐに忘れてしまう事。恩を忘れてしまったら、相手に何も恩返しをしていないことになるし、恩を仇で返す事にもなってしまいます。自分の過去を振り返ると、ぞっとすることが多々あります。この恩を石に刻み込むように忘れずにしておけば、感謝の気持ちが行動につながり、恩返しができるのでしょうか。

こう考えると 「やってもらえて当然だ」「やるのが当たり前だ」「やってもらうのが当たり前」「当然やるべきだ」などと一方的に期待したり求めたりする自分が日常生活に数々あることに赤面します！！ 当たり前になってしまう時こそ、感謝を忘れていた時なのですね。思い返せば、こんな瞬間から、人間関係が崩れていったことが浮かんできます。

感謝（ありがとう）とどういたしまして のやりとり 恩のやりとりが 人間関係の基本ですね。

尾畠春夫さんが発見した二才男児に対して 「もしどこかで元気で大きくなったら、人が喜ぶことをしてあげてと私は伝えたいですね。人が悲しむことじゃなくて、人が喜ぶこと。小さくてもいいから人が喜ぶことをしてあげてね、と言いたいです」という言葉を述べたそうです。この利他の心そのものが はっとする大きな感動 衝動です。一切のお礼もうけとらず、その後の被災地での活動においても「つまようじ」一本も受け取らないという彼の信条もすごいです。

「刻石流水」を調べたら、ほとんどに これは仕事や人間関係の基本であり、仕事関係や友人関係や身近な人との関係で肝に銘じて実践してみようという事が多々ありました。

ところが、信毎の記事では、六七才の男性がこう結んでありました。

「最も身近にいる妻に対して、見返りを求めず、利他の心で接していきたいと思う」と。

一番身近な人は、やはり夫婦ですね。「やって当たり前」「やってもらって当たり前」「やるのが当然だ」「かせいでいるから」「忙しいから」などなど・・・ 利害関係 見返り 力関係 など行動・時間力学などを照らし合わせて、いつの間にか夫婦関係を凶ってしまうことになることもあります。結婚する時は 「無償の愛と永遠の愛」を語ったはずなのに！！

親子関係でも、本来 無償の愛であるはずなのに、「これだけやってあげたのに なぜできないの？」とか「あれだけ応援してきたのに成果が上がらないじゃないの？」とか「こちらの気持ちがわからないの？」とか「あれだけ言っているのにまだわからないの？」などなど・・・、見返りや成果や成長を一方的に期待することもありますか？

私たち保育教育分野でも 「これだけ頑張って手をかけ愛情を注いでいるのに、子供が期待通り成長変化してくれない」などとぼやき、相手に成果期待をかけている 事に反省する毎日です。

刻石流水 は仏教の言葉 同じ意味で 無償の愛 この言葉で一番にイメージするのは マザーテレサ です。妻の母親は、60年以上お寺を守ってきた女性であり、まさに 刻石流水のような人でした。そして、妻の大好きな言葉は 無償の愛です。夫はまだ足下にも及びませんが 恩を忘れた恥を反省忘れず、 刻石流水を刻んでいきます。